

スマイル通信

～ 外来新聞

2015年11月

当院からのお知らせ

<1. 診察時間について>

6月より、予約の無い患者さまの泌尿器科の診察受付時間が変更となりました。

★予約なし(泌尿器科) 午前 9:30～11:30 午後 17:00～18:30

予約の患者さまの受付時間は、従来通り 午前 9:30～12:00 午後 17:00 から 19:00 です。

腎臓内科の午前診察は泌尿器科と同様予約なしの患者さまは 9:30～11:30 までです。

午後は、予約あり・予約なしの患者さまとも 16:00～18:00 までです。

ご迷惑をおかけ致しますが、午後からの手術時間に影響を及ぼしております。

ご協力を御願い致します

また、診察の順番は緊急度・診察内容に応じて前後しますのでご了承ください。

<2. 医師の交代について>

10月より泌尿器科医師が交代となりました。

診療担当医

		月	火	水	木	金	土
午前	1診	原	原	原	原	原	土 鈴木
	2診	宮本			吉矢		
午後	1診	鈴木	原	鈴木		原	
	2診			吉矢			

お知らせ

10月1日から泌尿器科医師が交代となりました。



はじめまして。この10月から泌尿器科医として神戸大学医学部附属病院より赴任して参りました鈴木光太郎です。

まだまだ至らない点が多く、もしかしたら皆様にご迷惑をお掛けするかもしれませんが、可能な限り患者様の声に耳を傾け、一緒に疾患と向き合っていきたいと考えております。

これから涼しい季節となってきますが、結石予防のため、飲水をしっかりとるよう心がけましょう！

前立腺肥大症の治療薬

前立腺肥大症の薬物治療に使われる薬は、 $\alpha 1$ (アルファワン) アドレナリン受容体遮断薬 ($\alpha 1$ 遮断薬)、 5α 還元酵素阻害薬、抗アンドロゲン薬、生薬・漢方薬、低容量 PDE5(ホスホジエステラーゼ)阻害薬などに分けられます。

$\alpha 1$ 遮断薬 (ハルナール・フリバス・ユリーフなど)

$\alpha 1$ 遮断薬は、前立腺肥大症に伴う排尿困難の薬として、現在最も多く使われる内服薬です。前立腺平滑筋に対する交感神経緊張状態を抑えることで、前立腺を弛緩させ、尿道に対する圧迫を軽減します。また、前立腺肥大症に伴う過活動膀胱の改善にも効果があり、排尿困難だけでなく、頻尿、夜間頻尿、尿意切迫感などの蓄尿症状の改善にも有効であることが示されています。前立腺を小さくする効果はありませんが、長期的な改善効果も示されています。

5α 還元酵素阻害薬(アボルブ)

血液中の男性ホルモン(テストステロン)が、前立腺組織に作用するのを抑える作用を持ちます。前立腺細胞の増殖を抑制し、その結果肥大した前立腺が縮小し、排尿困難の症状を改善します。一般に副作用の発現率は低く、特に、この薬は血液中の男性ホルモン(テストステロン)を減少させることがないため、勃起障害や性欲減退などの副作用はまれです。

抗アンドロゲン薬(抗男性ホルモン薬) (プロスターール・パーセリンなど)

前立腺に対する男性ホルモンの作用を抑える薬ですが、精巣からのテストステロン産生を抑制するとともに、血液中のテストステロンが前立腺細胞に取り込まれるのも抑制します。この薬も、肥大した前立腺を縮小して、排尿困難の症状を改善します。血清テストステロン値を低下させるため、高頻度で勃起障害や性欲低下などの性機能障害の副作用がみられます。

生薬・漢方薬 (エビプロスタット・セルニルトンなど)

植物から抽出したエキスを薬にした生薬や、いくつかの漢方薬が前立腺肥大症治療に使われることがあります。しかし有効性については十分な科学的根拠が示されておらず、 $\alpha 1$ 遮断薬よりは効果が劣りますが副作用はまれです。

低容量 PDE5(ホスホジエステラーゼ)阻害薬(ザルティア)

今までの治療薬とは異なる働きをする前立腺肥大症の治療薬として 2014 年に発売されました。ホスホジエステラーゼという酵素を阻害すると血管や尿道、前立腺の緊張を和らげることができます。尿道の筋肉を弛緩することで、排尿障害や蓄尿障害などの症状を改善します。

薬を使う上での注意事項

前立腺肥大症をはじめ尿路に閉塞性疾患がある場合、使用してはいけない薬があります。普通の人が飲んでも問題はないのですが、前立腺肥大症があると風邪薬を飲んだあとで尿の出が悪くなることもあります。そのほかに不整脈に使う薬、抗うつ薬、精神安定薬、睡眠薬、腸検査の前に服用する薬、頻尿改善薬などの中には尿を出にくくするものがあります。医療機関を受診されるときは前立腺肥大症があることをあらかじめ担当医師につたえておくとい良いでしょう。

インフルエンザについて学ぼう

インフルエンザってどうやって流行するのか？

インフルエンザの感染経路は飛沫感染と接触感染があります。飛沫感染は感染した人が咳をする事でとんだ飛沫に含まれるウイルスを別の人が口や鼻から吸い込んでしまいウイルスが体内に入り込む事です。

インフルエンザの症状

発熱、乾いた咳、頭痛、筋肉痛、咽頭痛、鼻汁、全身倦怠感などの症状が発生しますが、特徴的なものはありません。

特別な治療はあるのでしょうか？

特別な治療法はありません。内服、吸入、点滴など行います。

インフルエンザにかからないためには(対策)

普段から手洗いやうがい、手の消毒を行いましょう。

咳が出るときはマスクをつけます。

予防接種：12月中旬までに（流行期間は12月～3月…ワクチン接種による効果が出現するまでに2週間必要。）



インフルエンザを広げないためには

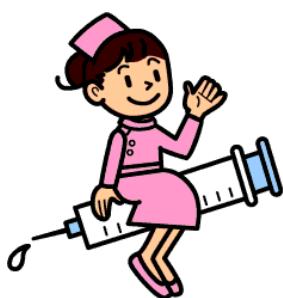
感染者は家族と離れ個室で過ごしましょう。

感染者は自宅内でも発症後5日を経過するまではマスクを着用して過ごしましょう。

感染している家族と接するときにはマスクをつけ接した後は手洗いか手の消毒を行いましょう。

鼻や口、目の周りには触れないようにしまししょう。

こまめに手洗いや消毒を行いドアノブや電気のスイッチなどはアルコールで拭いてください。



上記の症状が見られたら、まずは内科受診をお奨めします

当院通院中の患者様で、泌尿器科の症状なのか？インフルエンザの症状なの

か？判断がつかない場合は、お気軽にご相談下さい。